

第56回日本小児血液・がん学会学術集会 会長挨拶

この度、学会員の皆さまのご推挙により、第56回日本小児血液・がん学会学術集会長を仰せつかり、田尻達郎委員長をはじめとするプログラム委員会の方々とともに2年間にわたる準備期間をへて、ここに開催する運びとなりました。

日本小児血液学会と日本小児がん学会が合併し、日本小児血液・がん学会がスタートしてから、3回の学術集会が開催され、丸3年が経過しました。この間、小児の血液疾患、腫瘍性疾患を取り巻く、社会的、学術的環境は大きな変革の時期に入り、更なる発展が期待されています。

本学会が、より高度で専門的かつ良質な小児の血液疾患、腫瘍性疾患に対する診療体制を構築することを目指して取り組んでいる小児血液・がん専門医制度も、研修施設、暫定指導医の認定が終わり、2011年1月から研修がスタートしました。そして2014年10月には、第一回の専門医認定試験が行われ、11月には、正式な小児血液・がん専門医が誕生します。希少疾患とされる小児難治性血液疾患、小児悪性腫瘍の治療成績の向上を図る上で必須である多施設共同臨床研究においても、研究の質の向上を目指す試みが続き、いわゆる National Study や、国際共同研究の導入も当たり前と考えられる時代になりました。

このような背景をかんがみ、第56回日本小児血液・がん学会学術集会のメインテーマは“Domestic から Global へ～break through を求めて”といたしました。

特別講演、招聘講演にくわえメインテーマにそった国際シンポジウムを2つ、今後、取り組まなくてはならない様々な問題を取りあげたシンポジウムを6つ企画するとともに、現代の医療で最も重要視される多診療科、そして多職種医療者の協働に目を向けたシンポジウムを2つ企画しました。

原点に戻り、一般演題を大切にしたいと思っております。優秀演題を選出し、プレナリーセッションを設けました。またポスターセッションにおいては、座長をおかず、発表者と質問者が自由にディスカッションをできるように、時間帯を設定の上、多くの会員の方にモデレーターを依頼いたしました。

また専門医制度開始以降、さらに重要度を増している教育セッションについては、他のプログラムとの重複を可能な限り避け、参加される方々の利便を損なわないよう配置しています。

学術集会2日目の午後には、韓国小児血液・がん学会と日本小児血液・がん学会の交流セッションを設け、この中で、今後の両学会の学術的交流を誓う式典も行われます。

例年のように、小児がん看護学会との合同開催、がんの子どもを守る会公開シンポジウムとの共同開催となり、合同シンポジウム、チャリティマラソンなどが企画されています。

岡山は瀬戸内海と県北に連なる中国山脈沿いに点在する温泉に囲まれ、穏やかな気候の中で近郊の果樹園ではマスクットや白桃などの果物を産する地方都市です。市内には後楽

園、少し足をのばせば倉敷の美観地区など、皆さまの心の憩いになる場所もあります。

是非、学術集会にご参加いただき、岡山でのご滞在を楽しんでいただけたら、幸いです。皆さまの御来岡をお待ちしています。

岡山大学病院小児血液・腫瘍科／大学院保健学研究科 教授

小田 慈